

月刊

# 地域保健

1  
2014

●新春座談会

## 健康格差縮小に挑む

●フロントランナー

洞口祐子さん 《岩手県釜石市 高齢介護福祉課 地域包括支援センター係長》

●ピープル

寺門廣輝さん 《医師、医療法人社団慈優会 九十九里病院理事長》



洞口祐子さん

釜石市 高齢介護福祉課 地域包括支援センター係長  
(兼)地域づくり推進課 中妻地区生活応援センター係長(保健担当)

自分が出会い、話をしてくれた人の命を守りたい

信頼関係の積み重ねが有事に生きる



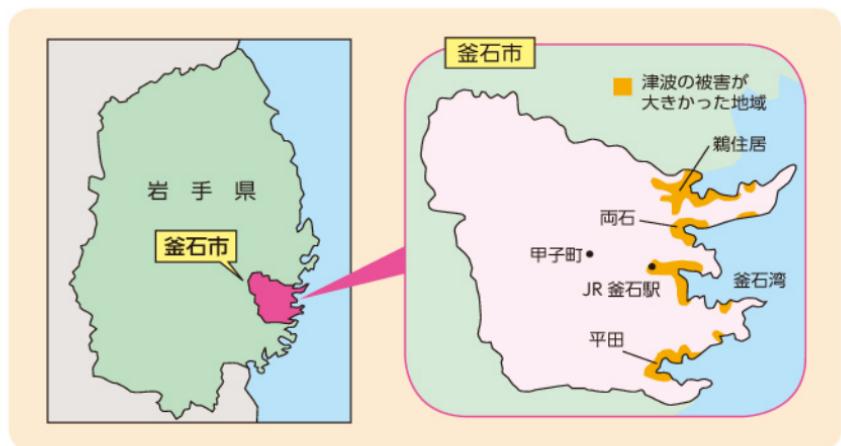
## 製鉄のまち釜石

釜石へ行くには列車がおすすめだ。新花巻駅から海へ向かって約1時間30分、岩手の景色をゆっくりと堪能しながら行くのがよい。釜石線は、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』のモデルとなつた路線である。小雪が舞い散る中、紅葉で紅く染まつた山々を縫つて走る風景は幻想的で、このまま別世界に行てしまいそうな感覚に陥る。そして、その情景の中に、自然や運命にあらがうことなく、ひつそりと寄り添つて生きている人々の生き方が垣間見える。

釜石といえど、国内最大級の鉱山「釜石鉱山」が有名である。その歴史は古く、平安時代に砂鉄などを集めて、木炭とともに燃焼させて鉄をつくったことからはじまる。その後、1857（安政4）年に、鉱山学者の大島高任（たかとう）によって、今の遠野市にほど近い大橋地

区に日本初の西洋式高炉がつくられ、出銑（しゅつせん）に成功。これがわが国の近代製鉄の礎となつた。明治時代には鉄の都として栄えたが、合理化のための大規模な企業の配置転換により中央に人口が流出し、鉄鋼業は衰退。現在は当時の半分くらいの人口になつていて、洞口祐子さんが新人当時担当していた甲子町は、まさに鉱山があつた地域。当時は製鉄所も全盛期で、企業の社宅も立ち並び、診療所、学校、映画館もあるなど活気にあふれたまちだつた。当時は釜石全体の人口も6万5千人くらいで、出生率も現在の3倍ぐらいはあつたという。しかし閉山してからはここも数えるほどの世帯数となつてしまつた。

「保健師になりたてのころ、『まずは自分の地域を知らない』と思いつつ、当地区を一軒一軒訪問して、医療サービスの要望に関するアンケート調査を



したことがありました。30年たつた今、そのころ出会った人が高齢にならなくて、昨年から配属になつた地域包括

# 健康格差 縮小に挑む



保健師の立場でどこから始めるか？



中板 育美さん

◆日本看護協会  
司会



近藤克則さん

◆日本福祉大学

山本昌江さん

◆長野県阿智村



松田正己さん

◆東京家政学院大学

経済的な「格差社会」の問題がクローズアップされてから久しく、依然としてその解消からはほど遠い状況が続いている。一方、「糸」という言葉に代表されるように、東日本大震災をきっかけとして、かつてあつた相互扶助の精神を尊ぶ流れが生まれた。並行するように、わが国の公衆衛生・地域保健の世界で「健康格差」や「ソーシャルキャピタル」という概念が注目されるようになつた。保健師にとっては健康格差もソーシャルキャピタルも古くて新しい問題である。新春座談会では、これらについて考えることで、保健師活動に新しい光を当て、近未来像を浮かび上がらせるこことを狙う。



中板育美さん

- なかいた・いくみ● 1987年から2004年まで東京都で保健師として活動。2年目から切れることなく虐待事例に関与。虐待親グループ、健診時のスクリーニング開発などに取り組む。保健師活動、児童虐待、人材育成に注力。国立保健医療科学院生涯健康研究部上席主任研究官を経て現職。看護学博士。

日本看護協会常任理事

日本看護協会常任理事

人口約34万人の所沢市から6800人ほどの阿智村に移つて感じることは、地区担当制の家族まるごとの保健師活動はやはり地域がよく見えるということ、そして住民同士のつながりがうことです。

**近藤** 日本福祉大学の近藤です。「健  
康格差社会—何が心と健康を蝕むの  
か」と題して、地域の助け合いで暮ら  
すことです。

か』(医学書院、2000)で、日本でも健康格差が見られることなどを書きました。その後、日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクトなどで実証研究や対策について研究しています。

経済的要因による健康の不平等は、見直せるよう働きかけたり、動きをつくり出したりしていく必要があると感じています。

そこで、きょうの座談会のテーマは「健康格差の縮小」と設定されています。健康日本21(第2次)の目標にも「健康格差の縮小」が掲げられ、個人目標のみならず社会環境へのアプローチが加わっています。改訂された保健師・看護師の活動指針にも、「生活困窮者等に対し、社会経済状況の違いによる健康状態の差が生じないよう健康管理支援を行うこと」ととの一文が盛り込まれています。

格差の問題は、まず国が言い出してくればいいと自治体でも取り上げてもらえない

**松田** 東京家政学院大学の松田です。健康格差の考え方は、WHOのPHCからあり、また健康日本21（第1次）のとき、その必要性を健康福祉政策学会の静岡セミナーで検討しました。格差を隠したり、認めてしまう社会の効率化の傾向に強い危機感を持つています。

**中板** 日本看護協会の中板です。アルマアタ宣言は、健康を基本的人権としており、私たちはそれを社会目標としていくのだと思っています。そこに格差が生じることを容認してはならない

歩前進かなと思います。  
きょうの座談会を通して、健康格差  
の縮小を意識した保健師の活動につな  
がればと思っています。

が当たり前である今の人たちには荷が重すぎてかわいそうな気もします。

きょうは、教育や現場の話題も絡めながら、保健師さんが格差の問題に向き合う糸口を探してみたいと思いま

松田 東京家政学院大学の松田です。

**中板** 日本看護協会の中板です。アルマアタ宣言は、健康を基本的人権としており、私たちはそれを社会目標としていくのだと思っています。そこに格差が生じることを容認してはならないし、公衆衛生的な立場からも社会的・経済的原因による健康の不平等は、見直せらるよう働きかけたり、動きをつくり出したりしていく必要があると感じています。

歩前進かなと思ひます。 きようの座談会を通して、健康格差の縮小を意識した保健師の活動につながればと思つています。

が当たり前である今の人たちには荷が重すぎてかわいそうな気もします。きようは、教育や現場の話題も絡めながら、保健師さんが格差の問題に向き合う糸口を探してみたいと思います。

ひみこ★ ホップ★ ステップ★

ジャンプ!



# 名前で呼ばれる 身近な存在になりたい

七転び八起きで夢をかなえる

のむらあゆみ  
**野村歩美さん**

●宇都宮市保健所 健康増進課  
保健センター



文=逸村弘美（ライター） 写真=C.Kent

## 英語に強い高校に行つて 保健師に開眼!?

ひとつの出会いが人生を大きく変えことがある。

宇都宮市保健センターで元気に働く野村歩美さんは、小さいときから活躍で、近所の人にも「歩美ちゃんは将来体操選手になるね」と言っていたそ  
うだ。性格も「ダイグイに行くタイプ（本人談）」で、高校は国際的な活躍も視野に入れて英語に強い学校に通ったという。しかし、そこで人生初のつまずきが起こる。大好きな英語の成績が伸び悩んでしまったのだ。将来の道が見えなくなっていたとき、野村

## 文化祭の健康教育で 渾身の「禁煙ジャ一」

「家庭科の実習で宇都宮市保健センターの子育てサロンに行き、そのとき付かせてもらったお母さんが『今から育児相談に行く』というので、同席させてもらいました。そのときの係の人

が、お母さんの悩みを聞いてパツッと的確にアドバイスして、お母さんを元気にしたのを見て、「かっこいい！」

こんな仕事があるのか」と。私がやりたいのはコレだ、と確信したのです

お母さんが保健士であったことや、もとから人のお世話が好きで一時期は看護師も考えていたという野村さん。

素地があつたところに、この体験で眠っていた何かが目覚めたようだ。のちに、この仕事が保健師だと分かった。「あのときの映像が不思議と頭から離れなくなつたのです」

そこからはブレなく、保健師の道にまっしぐら。栃木県立衛生福祉大学校の看護学科に進むこととなつた。

持ちは充実した学生生活だったとう。

「思い出深いのは秋の文化祭でやつた禁煙教室です。練習で、先生からなかなか合格が出なかつた。子ども向けに戦隊の○○レンジャーをもじつて禁煙ジャーをやろうと決めたのですが「衣装がゼンゼン禁煙ジャーっぽくなれ！」と言われて（笑）」



▲大成功を収めた歯の健康教室の写真

3年間の看護科を経て、待望の保健学科に進学。朝7時前から夜中の2時、3時まで実習と勉強に追われたが、気